

# はじけるこころ

Vol.47

編集・箕面市人権教育推進会議

発行・箕面市教育委員会人権施策室

TEL:072-724-6921

E-mail:edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成31年(2019年)3月

まいにち学校  まいにち街  の中 こどもの笑顔につなげる

この情報紙は、保育所・幼稚園・小中学校の保護者を初め、広く市民のみなさんに、身近な人権教育の話題を知っていただくため、市民参加方式で編集したものです。

ご家庭で子どもさんと、あるいはご近所や職場のかたと、こうした話題にふれて、語り合っていただけだと思います。

イキイキさわやかに学ぶ会

## アンガーマネジメント

～怒ると叱るのちがいが、  
上手な叱り方について～

◇10月23日(火)

◇メイプルホール 小ホール

◇講師 今井尻由利子さん(日本アンガーマネジメント協会ファシリテーター)

「イキイキさわやかに学ぶ会」は、市立小・中学校・幼稚園の保護者を対象に、身近な事柄を通して人権について考える学習会です。



はじめに、講師の今井尻さんは、上手な叱り方をする有名人と、間違えた怒り方によってバッシングを受けた有名人の実例を挙げ、どちらの怒り方が適切であるかを伝えたいうえで、アンガーマネジメントとは、「怒る必要があることは上手に怒り、怒る必要が無いことは怒らないこと」である、と説明されました。

怒りとは、感情そのものですが、他の何らかの感情や目的を伝えるために存在する、「第一次感情」という氷山の一角のような感情なのだそうです。

## もくじ

アンガーマネジメント	
～怒ると叱るのちがいが、	
上手な叱り方について～	…1
多文化社会を生きる私たち	
～コミュニケーションを	
通して学ぶ異文化理解～	…2
箕面市における支援教育・	
通級指導教室について	…3
訪問教育の紹介 大阪府立刀根山	
支援学校の訪問教育について	…4
精神障害の理解を深める教育	
・ハートパーク	…5
「その質問、ダメなの??」	
～面接を受ける子どもたちへ～	…6
「自己肯定感」を呼び覚ます絵本	…7
編集後記	…8

例えば、外に出かけている子どもから、「今から帰る」と連絡があったにもかかわらず、なかなか帰って来ない時に、保護者の方はイライラを感じると思いますが、それは心配や不安の気持ちにより生まれた怒りなのです。その後、子どもが夜遅くに帰ってきた時に、適切な叱り方を心がけず、イライラした感情をぶつけてしまうと、心配や不安といった本当の気持ちは伝わらず、逆に子どもから反発を受ける場合もあります。こういったケースにおける正しい対応は、怒りを一旦我慢し、「連絡があったのに帰りが遅かったので心配した顔を見られて安心した。」という第一次感情を伝えることです。

でも、怒りを我慢するには、どうすればいいのでしょうか。

怒りの感情のピークは、長くて6秒と言われます。怒ることはとてもエネルギーがいるため、6秒間気持ちを切り替えることが出来れば、怒りは抑えられるそうです。怒りやすい人による暴言や暴力も、怒りを感じてからの6秒の間に生じやすいとされています。

また、人生最大の怒りを10点と考え、感じた怒りに点数をつける、「怒りの温度計」のテクニックについても話されました。怒りを感じた直後は高い点数であったとしても、人生最大の怒りと比べてみると、よほどのレベルでなければ、怒りを感じた直後よりも点数は下がります。この点数化は

「見える化」(可視化)と似たもので、自分はいったい何に対して怒っていて、どの程度怒っているのかを知ること、自身の怒りをマネジメントすることができそうです。

さらに、怒りを感じた出来事と怒りの点数を、1か月ほど記録してみることで、自分の怒りの傾向が明らかになり、対策を講じられます。

最後に、「くするべき」という考えを強く持ちすぎると怒りの感情となってしまう、「どうしてこんなことも出来ないんだ」と他人の人格否定へと発展するケースもある、と話されました。そこで、他の人の「くするべき」の基準を考えてみることや、ここまでなら許せるという許容ゾーンを自分の中に設けることで、怒りにくい体質をつくる事が出来ます。

親子関係においても、社会においても、怒りと向き合う機会は非常に多いため、実際に活かせる知識が多く充実した学習会でした。



イキイキさわやかに学ぶ会

**多文化社会を生きる私たち**

「コミュニケーションを通して学ぶ異文化理解」

◇1月16日(水)

◇メイプルホール 小ホール

◇講師 阿部一郎さん

(一財)自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザー (多文化共生コーディネーター)

いま日本で働く外国人が増えています。このたび新たな在留資格に関する法律が制定されました。それに伴い、日本に在留する外国人の方がさらに増えることが予想され、私たちはいっそう多文化理解を深める必要があります。

2017年には各国に押し寄せる大量の難民、拡大するテロの脅威、ポピュリズム(大衆迎合主義)の広がりといった問題があり、国際社会に大きな影響を及ぼしました。それらにより、グローバル化がもたらす経済的な不満や多文化主義への反発など、世界は不安定な状態に陥りました。

そのような中で、いま日本で必要とされているのが最近よく耳にするグローバル人材です。グローバル人材の育成が教育機関などで謳われていますが、具体的にどんな資質が求められているのかを考えました。

2人1組のグループワークでは、それぞれ「見

える文化」「見えない文化」について意見を出し合いました。

私がこの講演を通して特に印象に残ったことは、「文化とは氷山のようなもの」という言葉です。

氷山には見える部分と見えない部分があり、他の氷山とぶつかる時は、水面下の部分からぶつかります。文化もこれと同じで、互いの倫理観、清潔感などの見えない文化の違いがぶつかり、そのすれ違いが、けんかや争いへと発展していくことがあるのです。

異文化間の理解には、まずしっかりと「コミュニケーションをとって話し合うこと」で、見えない文化を理解していくことが重要だと感じました。

そのためには、多様な文化の違いとともに、共通性を理解する「多文化リテラシー」が必要になります。多文化共生の社会をめざしていくためには、地域という枠組みでも、「多文化リテラシー」を身につけなければならぬことがよくわかり、勉強になりました。

(市民委員 中道香奈)



箕面市人権教育推進会議  
箕面市における支援教育・通級指導教室  
について

◇11月29日(木)

◇箕面市役所 教育委員会室

◇講師 萱野北小学校 新居三千子教諭

この情報を編集している「箕面市人権教育推進会議」で、支援教育をテーマに、新居教諭の報告を聞き、意見交換を行いました。

箕面市では、「ともに学び、ともに育つ」という理念のもとに、支援学級に在籍する子どもたちもできる限り通常学級で、他の子どもたちと一緒に学校生活を送れるよう支援しています。そして、新居教諭が担当している通級指導教室では、通常学級に在籍している「学習活動」や「コミュニケーション」のとり方」などに困難を感じている子どもたちに、週に1時間程度、放課後等に少人数で、子どもの特性に応じた特別な指導を行っています。学習面だけではなく、運動や音楽、「コミュニケーション」で困っている子どもへの支援として、集団で運動トレーニングやソーシャルスキルトレーニングを行うこともあります。

新居教諭が通級指導教室で大事にしていることは、子どもたちの困り感を少しでも緩和すること、得意なところを伸ばすことで自尊心を高め、そ

れを教室での学習につなげること、そして、通級指導の記録を担任や保護者と共有することで支援の連携を図ることです。

通級指導教室に通う子どもは年々増えており、箕面市では、平成30年度、小学校7校、中学校1校に通級指導教室を設置しています。自校に通級指導教室がない場合は、子どもが他の学校の通級指導教室へ通ったり、通級指導担当の教員が巡回指導をしたりしています。(国の方針としては、通級指導教室の設置を広めていこうとしています。)

また、報告の中で、通級指導教室で実際に行っている、「まちがいがさがい」や「きくきくドリル」、ビジョントレーニングを体験しました。子どもたちが飽きたり嫌にならないよう、通級指導担当の教員たちが、楽しみながら学ぶ手法をいろいろ組み合わせて支援メニューを作成していることが印象的でした。



## 訪問教育の紹介

### 大阪府立刀根山支援学校の 訪問教育について

大阪府立刀根山支援学校で訪問教育のお話を聞くことができました。刀根山支援学校は、大阪府北部地域の訪問教育を担当しており、箕面市の子どもたちも指導しています。

#### ●「訪問教育」とは

病院に入院している児童生徒が入院しながら学べる制度には、「院内学級」と「訪問教育」があります。「院内学級」とは、病気やけがで入院した子どもが学校と同じように勉強できるような病院内に設置された学級です。箕面市立病院には、小学校と中学校の院内学級が設置されています。しかし、全ての病院に院内学級があるわけではありません。そこで、院内学級が設置されていない病院には、教員が訪問して指導をします。また、感染予防等の観点から、退院後自宅療養する小中学生のころへ先生が訪問して指導することもあります。これを「訪問教育」と言います。

#### ●学習の様子

基本的な学習の様子は次のとおりです。

#### ◆学習内容

小学生4教科（国、社、算、理）  
中学生5教科（国、社、数、理、英）

※子どもたちの病状や学習の様子に合わせて、工作やアクティビティなどの時間も入れながら指導します。

#### ◆授業時間

週3回、1回2時間が基準

#### ◆学習場所

ベッドサイド、病院内のプレイルームなど症状や条件に合わせて

#### ◆学習形態

子ども1人に先生1人の個別指導が多いですが、病院に複数の子どもたちがいる場合、学習内容によっては一緒に勉強することもあります。

小学生は、2人の先生が科目や単元を分けて担当することが多いそうです。中学生には5人の先生がそれぞれの担当教科を教えに来てくれます。

先生たちは、朝からその日に授業する教科書や教材・教員を持って、子どもたちのいる病院や家をまわります。その日の子どもの状況に合わせて臨機応変に指導できるよう、たくさんの教材・教具を持って出かけるので、キャスター付きの旅行かばんが便利なのだそうです。刀根山支援学校に

は18人の訪問教育の先生がいるとのことですが、先生たちが一同に顔を合わせるのは週に1回ミーティングの時だけなので、その時間は、子どもたちの情報を共有する貴重な時間として大切にしているとのことでした。



#### ●先生にインタビューしました

Q 子どもと関わる時、どんなことを大切にしていますか。

A 訪問教育を受けている子どもも多くは、治療やリハビリによって身体の痛みだけでなく、心にストレスや不安を抱えています。また、入院中の子どもは、家族や友だちと離れるこ

とを余儀なくされ、孤独を感じていると思われ  
れます。子どもたちにとって、訪問教育は勉  
強の時間ですが、気分転換の時間でもあると  
思います。カウンセラーではありませんが、  
悩みや愚痴も言える話し相手として、子ども  
の心の声に耳を傾け、寄り添えるような心がけ  
ています。

Q 学習を進めるにあたって気をつけていること  
はありますか。

A 今、子どもたちが通っていた学校ではどんな  
学習をしているのか、どんな教材を使ってい  
るのかを聞いて、学校の進め方に合わせた指  
導を行います。訪問教育は通点だと思っ  
からです。療養生活が終わったときに元の学校  
に戻っていくことが大前提ですので、スムー  
ズに復学できるように学校との連携が欠かせ  
ません。長く学校を離れた子どもの場合は、  
学校とカンファレンスを行い、その子に合わ  
せたペースで学校生活を取り戻せるよう支援  
します。

Q 連携を大切にされているということですか。

A そうです。もちろん、学校だけでなく保護者  
や子どもたちのいる病院との連携も大切です。  
子どもを受け入れる際は、どんな教育を希望  
しているのか、子どもからだけでなく、保護  
者の願いをしっかりと聞きようになっています。  
また、治療を受けながらの指導になるので、

子どもの様子を病院の医師から聞き、無理の  
ない学習活動を考えます。

●お話を聞いて

お話をお聞きして先生方から、「子どもたちの夢  
や希望、未来に向かって進んでいこうとする気持  
ちを守り育てたい」という思いを強く感じました。  
そのためにはまず、学習機会を提供することに  
よって、勉強できる状態なのにできないという期  
間をつくらないこと。そして、子どもたちが自分  
らしさを大切に、心も体も活力を持って生活でき  
るよう、精一杯サポートしていることがわかりま  
した。」子どもたちの今を大切に。今、できること  
の中で、何をしてあげられるのかを一緒に考えた  
い。」という先生の言葉が心に残りました。



**精神障害の理解を深める教育・ハートパーク**

～もみじの家でたわし作り～

◇8月30日(木)

◇菅野北小学校6年生

◇生活介護事業所 もみじの家

菅野北小学校の6年生は、社会福祉法人「息吹」  
の協力のもと、精神障害者のかたに話を聞いたり、  
共に活動したりしながら、障害に対する理解と、

人権意識を高めるための活動をしています。この  
日、6年生たちは精神障害者のかたが働いておら  
れる「もみじの家」で、一緒にクイズをしたり、  
たわし(キッチンフラワー)作りをしたりしながら、  
精神障害について理解を深めました。

もみじの家に着くと、子どもたちは、温かく迎  
えてもらいましたが、最初はちょっと緊張した様  
子でした。もみじの家の皆さんは、そんな子ども  
たちの緊張をほぐすために、楽しくクイズをして  
くれました。たわし作りの説明を聞き、たわしの  
材料となるナイロン布を選ぶときには、たくさん  
の色の中から、どの色の組み合わせにしようか、  
友だち同士で見せ合ううちに、少し笑顔が見えて  
きました。



ところが、実際に作り始めるとなかなか難しい、作り方の説明を聞いていたはずなのに、どうしたらいいのか分からない。たわしをくくるための刺繍糸が針の穴に通らない。そんな困っている様子の子どもたちに、もみじの家の皆さんが優しく声をかけ、アドバイスをしたり、手伝ったりしてくれました。

たわしができあがる頃には、子どもたちともみじの家の皆さんが、一緒に冗談を言い合って笑う様子もありました。出来あがったたわしが、きれいな球になるよう、いつまでも丁寧にはさみで形を整えている子どもたちもいました。

最後に、子どもたちが感想を書いて終わりましたが、もみじの家に来るまでは、精神障害者と聞いて「ちょっとこわい」と思っていた子どもたちも、「わからないとき教えてくれて優しくかった」「明るく笑ったり、みんな同じだと思った」などと、書いていました。

知らないことに対しては、誰も不安や怖さを感じません。

しかし、もみじの家の皆さんと子どもたちの様子を見ていて、よく分からないまま、一面的な情報で決めつけたり、うわさを信じたりせず、実際にふれあって、知ろうとすることが大切だと思います。

この後、子どもたちは学校で、もみじの家での活動を振り返り、日常生活で精神障害者への偏見

や差別に出合ったらどう行動するかを考えるワークショップをしました。子どもたちが障害や人権への理解をさらに深めて、みんなにとって安心できる社会に向けて、行動できる人に成長していただらと願います。

### 「その質問、ダメなの？」

面接を受ける子どもたちへ

◇11月19日(月)

◇第一中学校 上田健輔教諭



中学3年生の皆さんにとって、秋は卒業後の進路を選択する大事な時期です。この時期、学校では入学試験や就職試験に向けて、「面接」の練習が行われます。この日は、「その質問、ダメなの？」の授業がありました。採用選考に関する人権問題について考える授業です。その授業の様子をレポートします。

授業のはじめに、まず先生たちによる面接のロールプレイがありました。その中には面接を受ける人が嫌だなど思う質問が出てきました。チェックシートを見ながら生徒たちは、「これは不適切な質問ではないか」と思うものをチェックし、理由を考えました。次の3つは、その中から抜粋したものです。どれも面接での質問としては不適切なものです。

- ①あなたの尊敬する人物を教えてください。
- ②あなたの住んでいる地域は、どんな環境ですか。
- ③ごきょうだいがおられるようですが、お勤めされていますか。

次に、生徒たちは、自分でチェックシートにチェックしながら不適切だと思った理由を考えた後に、班で意見を交流しました。「この質問は勉強や仕事とは関係ないやん。」「自分の努力ではどうにもできないことをきかれるのはおかしいよね。」「差別につながることもあるんじゃないかな。」な

ど、活発に自分の考えやその理由を話し合う様子がありました。

入学試験や、就職試験等で行われている面接は、受験者の適性や能力、その学校や会社へ入ってからの意欲などを判断する手がかりの一つとして実施されます。しかし、本人の能力・適性や意欲と関係ない質問を面接ですることは不適切だとされています。①が不適切にあたる理由は、思想・信条、宗教、人生観などにふれる質問であり、憲法で保障されている、信教の自由、思想・信条の自由など、個人の自由権に属する事柄だからです。②③は、本人の責任ではない事柄、本人の努力では解決できない問題だからです。

最後に、生徒たちは、もし面接でこのような質問があったら、どのように対応をすればいいのか、考えました。上田教諭から、「もし、このような質問があったら、面接を受ける側が『その質問には答えられません』と伝えたり、もし、質問に答えたとしても、後で学校に報告したりすることが大切です。気づいて行動することで社会が変わります。みんなの力で、安心できるより良い社会をつくってほしい。」とお話がありました。面接を受ける側は、入学や就職を希望しているという点で「弱い立場」に置かれがちです。しかし、もし面接で不適切な質問があって、本人が傷ついたら何もしないでいると、その学校や会社などが許されてしまうことになります。

3年生の皆さんには、今日学んだことを活かして、自信を持って、それぞれの進路に向けて挑戦してもらいたいと思いました。

司書からのおすすめ本

**「自己肯定感」を呼び覚ます絵本**

箕面市立の小・中学校図書館では、各校の授業や取組と連動した本の紹介をしています。その際、先生から、人権教育の教材として活用するための絵本を紹介してほしいという依頼もあります。今回は、その一つを紹介します。

数年前、ある小学校の養護教諭に「2年生の授業で、赤ちゃんの成長について話すのですが、何か子どもたちに読み聞かせできる本はないですか?」と聞かれて、紹介したのが『あかちゃんてね』です。5歳の女の子が見て聴いて感じた、赤ちゃんの1年間の成長を描く写真絵本です。

養護教諭の話をお聞きした後、私が

この絵本を読み語ると、子どもたちは食い入るように見ます。

そして、折りたたまれた最後のページを開くと、絵本の絵が倍の大きさになり、そこには生まれてすぐから



『あかちゃんてね』星川ひろ子・星川治雄／著 小学館)

1歳までの赤ちゃんの姿がずらりと並んでいます。赤ちゃんの成長を一度に見ることができこのページに来ると、子どもたちから「わぁ」と声が上がります。

以前、ある講演会で聞いたことですが、たとえ今、親子の関係がうまくいっていなかったとしても、「あなたの誕生が嬉しかった」と聞くことで、その子の心の奥に熾火(おきび)のように埋もれた自己肯定感を呼び覚ます、といえます。この『あかちゃんてね』を読み語った時、どの子もにっこりしている様子を見ると、本当にそうだと納得できます。

1、2年生が好きな「命」がテーマの絵本は他にもあります。『おかあさんがおかあさんになった日』は「おかあさんはあなたを生んだ時に、初めておかあさんになったのよ」と語る絵本で、よく借りがれています。

(西南小学校司書 東谷めぐみ)



『おかあさんがおかあさんになった日』(長野ヒデ子／さく 童心社)

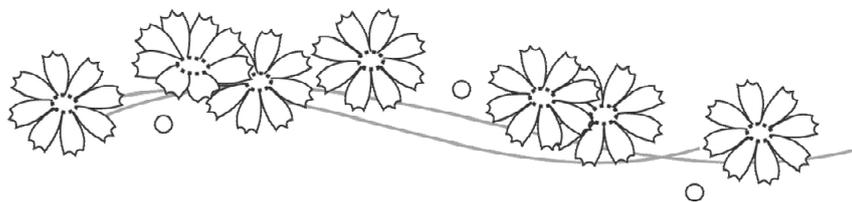
## ☆編集後記☆

読者のかたから、前号の感想をお送りいただいたのでご紹介します。

「私は精神障害者です。私の父は身体障害者で、私の子には診断名がつかない程度の発達障害があります。はじけるこころ vol.46 を読んで、いろいろ勉強になりました。もうすでに、前の号で取り上げておられるかもしれませんが、精神障害についても、記事を出していただければ幸いです。よろしくお願いいたします」。

そこで、一部ではありますが、「ハートパーク」(5ページ)について掲載しました。社会福祉法人息吹では、市内で生活介護事業所「もみじの家」のほか、就労継続支援 B 型事業所「あっとほーむ」「シエスタ」や、地域活動支援センター「パオみのお」を運営されています。

精神障害を含め、障害についての理解が深まり、すべての人が自分らしく暮らせるように、今後も地域に根ざした教育を、地道に重ねていく必要があると考えています。



「はじけるこころ vol.47」はいかがでしたか？



みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください。下記の①～④の内容を、郵送、ファクスまたは Eメールにてお送りください。これからも人権教育に関心をもっていただける記事を掲載したいと思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集委員一同お待ちしております。

## 記

- ①ご意見・ご感想、②お名前（無記名でも構いません）、③「はじけるこころ」の入手方法、④（「はじけるこころ」に掲載する場合がありますので）ご意見・ご感想掲載の可否について

〒562-0015 箕面市稲 1-14-5 箕面市教育委員会人権施策室

FAX : 725 - 8360

Email : [edujinken@maple.city.minoh.lg.jp](mailto:edujinken@maple.city.minoh.lg.jp)